

各位

東京都渋谷区恵比寿一丁目 19 番 15 号
株式会社オウケイウェイヴ
代表取締役社長 兼 元 謙 任
(コード番号: 3808 名証セントレックス)
問い合わせ先 取締役経営管理本部長 野崎正徳
電話番号 03-5793-1195

平成 30 年 6 月期 (第 19 期) 第 1 四半期連結業績ハイライト

～ 法人向けの売上が拡大し利益伸長 ～

単位: 百万円

連結 損益計算書	前期1Q	当期1Q	増減額
売上高	575	557	△ 17
売上原価	313	288	△ 24
売上総利益	261	268	7
販売費及び一般管理費	264	234	△ 29
営業利益	△ 3	33	37
経常利益	△ 6	24	31
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△ 8	18	26

売上高

エンタープライズソリューション事業の売上は、四半期ごとの比較で過去最高の新規導入サイト数となるなど、好調に推移しています。しかしながらナレッジインテリジェンス事業で一部サービスに外的環境の変化があったこと、多言語 CRM 事業は前期に一時的な受託案件があったことから、当期の売上高は前年同期比 3.1%の微減となりました。

単位: 百万円

連結 貸借対照表	前期末	当期1Q	増減額
資産の部			
流動資産	1,280	1,215	△ 64
固定資産	570	638	67
有形固定資産	80	89	9
無形固定資産	88	113	25
投資その他の資産	401	435	33
資産合計	1,850	1,854	3
負債の部			
流動負債	310	297	△ 12
固定負債	49	47	△ 1
負債合計	359	345	△ 14
純資産の部			
株主資本	1,499	1,517	18
資本金	984	984	—
資本剰余金	953	953	—
利益剰余金	△ 438	△ 420	18
為替換算調整勘定	△ 19	△ 19	△ 0
新株予約権	10	10	△ 0
純資産合計	1,491	1,508	17
負債純資産合計	1,850	1,854	3

親会社株主に帰属する

営業利益・経常利益・四半期純利益

利益面においては、原価構造の見直しや業務効率の改善、外注費や広告宣伝費等の適正な運用により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で増益となりました。

資産・負債・純資産

増減要因

- ・流動資産の減少
主に受取手形及び売掛金の減少によるもの
 - ・固定資産の増加
主にソフトウェア仮勘定の増加によるもの
- 安全性分析の指標である連結流動比率^{※1}が **408.3%**、連結自己資本比率^{※2}が **80.8%**と安全とされる水準を保っております。

今後も健全な企業経営に努めてまいります。

※1 流動比率(%)=(流動資産÷流動負債)×100

短期的な支払能力を判断する指標とされており、150%が標準、200%以上が理想とされています。

※2 自己資本比率(%)=自己資本÷総資本×100

自己資金力を判断する指標とされており、40%以上が理想とされています。

ナレッジインテリジェンス事業

主なサービス



Question 数 約 815 万件
 Answer 数 約 2,780 万件
 ありがとう数 約 4,650 万件

(2017.9.30 時点)

OKWAVEサービス紹介動画

検索

- ナレッジインテリジェンス事業では、日本最大級の Q&A サイト「OKWAVE」の運営や 2,900 名以上の専門家が回答してくれる「OKWAVE Professional」などを運営しております。
- 顧客参加型サポートコミュニティツール「OKBIZ. for Community Support」、「OKWAVE JOIN」「OKBIZ. AI Knowledge」など、Q&A サイト「OKWAVE」と連携した企業向けサービスを提供しております。

ナレッジインテリジェンス 当期の活動と業績

ロボホン用アプリ「OKWAVE」



シャープのモバイル型ロボット「RoBoHoN（以下ロボホン）」と音声でコミュニケーションを取りながら楽しく疑問を解決できる当社 AI を活用したアプリケーションの提供を開始しました。ロボホンが商品やサービスについての質問に回答するなど、本アプリを活用した法人向けサービスへの展開も推進していく予定です。

NTT ドコモに Q&A コミュニティ提供



顧客参加型サポートコミュニティツール『OKBIZ. for Community Support』を用いた、NTT ドコモのスマートフォンなどの製品やサービスの疑問や困り事を、24 時間 365 日いつでもドコモの利用者同士が質疑応答を通じて解決できる Q&A コミュニティの提供を開始しました。

単位：百万円

ナレッジ インテリジェンス	前期	当期	増減額
売上高	94	65	△ 29
セグメント損失	△ 22	△ 57	△ 35

AI 技術のサービスへの導入ならびに 法人向けサービス強化へ

顧客参加型サポートコミュニティツール「OKBIZ. for Community Support」を NTT ドコモに提供開始するなど、企業向けの売上が堅調に推移しています。しかしながら一部サービスの外的環境変化の影響により、前年比では減収減益となりました。

今後の収益拡大に向けて、AI「KONAN」ならびに「AI Knowledge」テクノロジーを用いたロボホン専用アプリ「OKWAVE」の提供、米国子会社 OKWAVE INC.にて開発した AI「オウケイウェイヴ・アンサー・テクノロジー」の「OKWAVE」への導入など、当社開発技術のサービスへの実装を進めています。また優秀回答者を表彰する「OKWAVE AWARD」の開催や、利便性向上を目的とした「OKWAVE」での大規模なカテゴリ改編の実施により、回答投稿数が上昇傾向にあります。

なお、OKWAVE INC.では「OKWAVE food Answers」アプリの配信は終了し、AI 技術を当社に移管。デジタルグリーティングカードサービスへ経営資源を集中させることで、コンテンツ拡大、検索順位向上を実現しています。

エンタープライズソリューション事業



FAQ/お問い合わせ管理システム
国内売上シェア No.1

E サポートスペシャリストによる

安心・充実のサポート

(2017.9.30 時点)

[OKBIZ.サービス紹介動画](#)

[検索](#)

- エンタープライズソリューション事業では、企業へのお問い合わせの中で、よくある質問を管理・編集し、回答をインターネット上に公開することで、お問い合わせを減少させる企業向けソリューション「OKBIZ.」を提供しております。
- 米国最大の業界団体 HDI（ヘルプデスク協会）公認の E サポートスペシャリストによるコンサルティングを行っております。
- 特許技術を有する「OKBIZ.」を、国内 5 大銀行をはじめ、400 サイト以上にご利用いただいております。

エンタープライズソリューション

当期の活動と業績

「OKBIZ.」新規導入数最多を更新



当第 1 四半期の「OKBIZ.」の新規導入数は過去最高となる 23 サイトとなり、9 月末時点で 408 サイトが導入サイトとして各社に活用されています。業種も金融、メーカー、EC など多岐にわたり、消費者向けの公開型 FAQ サイトのみならず、社内ヘルプデスク FAQ や代理店向け FAQ など、利用シーンも拡大しています。

「OKBIZ.」販売窓口を拡大へ



社内ヘルプデスクのツールとしての利用の拡大、メーカーなどの自社 EC サイト構築に伴う FAQ サイトの利用など、FAQ へのニーズの高まりを背景に、販売提携している大手 IT 製品卸事業会社を通じ、販売パートナーとなる SI（システム構築）事業者やウェブ制作会社など販売窓口を拡大していく方針です。

単位：百万円

エンタープライズソリューション	前期	当期	増減額
売上高	298	340	42
セグメント利益	149	190	40

導入サイト数を積み重ね、
増収増益を達成

エンタープライズソリューション事業のビジネスモデルは、「OKBIZ.」導入に際する初期構築費と月額利用料ならびに利用量に応じた従量課金にて構成しております。

金融、メーカー、EC、通信など各業界の大手企業などへの新規受注により、四半期ごとの比較では過去最高の新規導入を実現し、現在稼働中の導入サイトは 400 サイト以上となり、前年同期比 114%の売上成長を遂げています。

利益におきましても前年同期比 127%と、大幅な増益を達成しています。

多言語 CRM 事業



**6 言語 24 時間 365 日対応の
多言語コンタクトセンター**

※基本言語は日・英・中・韓・葡・西。その他言語も取り扱っています。

- 多言語 CRM 事業は、連結子会社の(株)ブリックスにて運営している 24 時間 365 日体制の多言語コンタクトセンターです。
- 民間企業からの通訳センターによる多言語対応とバイリンガルスタッフによる様々な請負業務を行っております。
- 官公庁からの多言語システム開発受託とバイリンガルスタッフによる様々な業務を請負っております。


多言語 CRM 当期の活動と業績

東京都交通局の受託業務開始



東京都交通局の都営地下鉄などの駅係員・乗務員向けに多言語通訳サービスの提供を開始しました。駅構内などにて、日本語での案内が難しいお客様に対し、駅係員・乗務員がブリックスの多言語通訳センターに電話し、当社オペレーターを介して案内します。英語、中国語（北京語）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の 5 言語にて実施します。

医療機関向けセミナーの実施



マーケティング施策の一環として、医療機関、自治体等を対象に「医療分野における訪日旅行客の受入整備」に関するセミナーを実施しました。当日は課題、対応策などを、行政の専門家、大手医療機関を迎えた講演を実施。参加者の関心の高さが伺えるセミナーとなりました。

単位：百万円

多言語 CRM	前期	当期	増減額
売上高	182	151	△ 30
セグメント利益	30	35	5

費用見直しの徹底等により
セグメント利益が伸長

当期におきましては、訪日外国人客の増加や東京五輪開催決定を追い風に、地方自治体や医療分野、鉄道などの案件が増加しております。これにより多言語コンタクトサービスの基幹事業である電話通訳案件が堅調に伸びております。前期は一時的な受託案件があったため前期比では売上は減少したものの、費用の見直しを継続的に実施していることから利益は引き続き伸長しました。

第 19 期上期予想に対する進捗

* セグメント名称の変更について

企業戦略を明確化することを目的として、ソーシャルメディア事業の名称をナレッジインテリジェンス事業へ変更いたしました。なお、当該変更は名称のみであり、セグメント別の集計方法には変更はございません。

単位：百万円

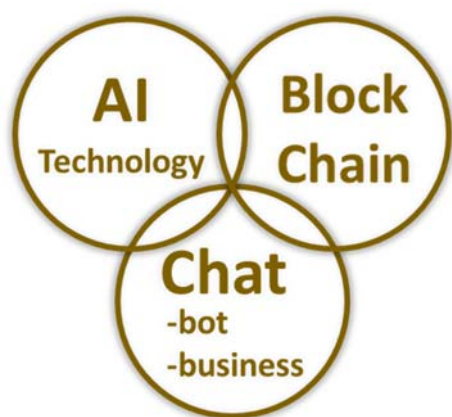
上期予想 (17/11/9公表) に対する進捗表	上期予想	1Q実績	進捗率
売上高	1,137	557	49.0%
ナレッジインテリジェンス事業	134	65	48.9%
エンタープライズソリューション事業	695	340	49.0%
多言語CRM事業	308	151	49.2%
営業利益	52	33	65.2%
経常利益	45	24	55.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	26	18	70.3%

本日、【第 2 四半期連結業績予想の修正に関するお知らせ】を発表しております。なお、通期業績予想につきましては、8月9日公表予想を据え置いております。

* 第 19 期戦略

当社は「互い助け合いの場の創造を通して、物心両面の幸福を実現し、世界の発展に寄与する」ことを企業理念に掲げています。この理念に沿って、後述のコアとなる「ABC テクノロジー」(AI、Blockchain、Chat) を活用し、互い助け合いを実現するプラットフォーム型サービスの開発・提供を進めていきます。第 19 期は法人市場に集中し、顧客サポート、社内ヘルプデスク、マーケティング支援の領域への製品・サービスの提供を進めるほか、当社子会社を通じた医療健康、不動産の領域でのサービス提供を進めます。また、個人向け市場については将来性を見込んだ個人課金型の知識流通サービスに着手します。さらに、ICO (Initial Coin Offering/仮想通貨発行による資金調達) をはじめとする仮想通貨とブロックチェーンを取り巻く国際的な技術革新と政策の変化に対応した取り組みも進めていきます。

* 重視するテクノロジー



 **OKBIZ. AI Knowledge**

 **OKBIZ. for Chat & Bot**

AI Technology 人工知能技術 コードネーム「KONAN」

AI Technology とは、コンピュータを使って、学習、推論、判断など、人間の知能のはたらきを人工的に実現する技術です。当社は 2014 年より、人工知能「KONAN」の研究開発に力を注いでいます。第 18 期には「KONAN」を土台にした AI エージェント「あい」や企業向けの「OKBIZ. AI Knowledge」などの AI サービスの提供を開始。当期も引き続き、コアとなる「KONAN」の強化と AI 関連サービスの開発・提供を進めてまいります。

Blockchain ブロックチェーン技術 コードネーム「YEBISU」

ブロックチェーンとは、従来の中央集権型のデータ管理とは違い、複数の箇所にデータを置く分散型のネットワークで、安価で保守性の高いネットワークを実現した技術です。

高度なブロックチェーン技術開発力を持つテックビューロ(株)と協業して、Q&A サイト「OKWAVE」で流通している知識や、お問い合わせなどの情報資産の管理を徹底するほか、サイト内で安全かつ確実に、仮想通貨のやり取りが行える場を創出してまいります。また、ICO などの新たな潮流を踏まえた関連技術やサービスの利活用について適宜検討してまいります。

Chat チャットボット・ビジネスチャット技術 コードネーム「DANANG」

チャットとはインターネットを活用し、時間や場所を気にせず、手軽に情報交換ができる技術です。

同時多発的なお問い合わせに対応できるチャット技術を持つモビルス(株)と協同し、お問い合わせに無人で自動対応するチャットボットや社内情報の共有が円滑に進むよう、ビジネスチャットを組み込んだナレッジソリューションの開発・販売を行ってまいります。また、第 18 期に販売を開始した「OKBIZ.」

と連携させた FAQ ボット機能を特色とする「OKBIZ. for Chat & Bot」のように、当社ならではのチャット技術の活用を進めてまいります。

* 本年 10 月（第 2 四半期）以降の発表済みのトピックス

10 月 6 日発表：香港の Token News HK Limited 社と ICO に関する業務提携を締結

10 月 10 日発表：トヨタ自動車「OKWAVE」の感動 Q&A を起用した動画「ママへ」を公開

10 月 17 日発表：医療情報事業子会社の OKEIOS が株式会社アイロムグループと資本・業務提携契約を締結

10 月 24 日発表：マレーシアに仮想通貨関連事業を行う海外子会社 OKfinc LTD. を設立

10 月 25 日発表：四国電力グループの通信会社 STNet に『OKBIZ. for Community Support』の提供を開始

10 月 27 日発表：当社子会社 OKfinc を通じ、シンガポールの ICO プラットフォーム事業会社 Wowoo Pte. に出資

11 月 2 日発表：ブロックチェーン製品開発、ICO ソリューション提供のテックビューロに追加出資

本資料に掲載しております数値、画面キャプチャ、画像等は特別な断りがない限りすべて 2017 年 9 月時点のものです。

本資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。